

## 移民世界の三種の新難民

ヴィジャイ・プラシヤド著、脇浜義明訳、田中一弘補訳 \*脚注は訳注  
トリコンティネンタル社会調査研究所 2024年9月5日



Rashid Diab (Sudan), Out of Focus, 2015.

ある夏の夕暮れ、ニジェールの容赦ない太陽が地平線に沈もうとしない夕どき、私はアガデスで、3人の心配顔の男たちと、小さい静かなレストラン「トゥーバ・オ・パラディ」（天国の至福）で日陰を探していた。3人のナイジェリア人はアサマカで北の世界へ渡るためにアルジェリアに入ろうとしたのだったが、国境が閉じられていたのだった。3人は地中海を渡ってヨーロッパへ行きたいのだが、そのためにまずアルジェリアへ入らなければならず、そのためにあの恐ろしいサハラ砂漠を越えるのだ。私が3人と出会った頃には、そのような旅は不可能になっていた。

アルジェリアが国境を閉じたので、アサマカの町は行き止まりになった絶望的な人々でいっぱいになっていた。私はこれらの人々と話した。彼らは身の危険を感じて故郷のナイジェリアを出たのではなく、故郷では食べていられないからだと言った。高いインフレーションと失業で生活が出来ない状況であった。「学校を卒業しても家族の負担になるだけという状態で、家にいるわけにいかないでしょう」と彼らは語った。レストランで一緒に夕涼みしていた3人の高学歴のナイジェリア人も、生計を立てるにもナイジェリアには仕事がないので、自分の希望に反して、人間らしい生活を求めて、危険な旅に出たのであった。

私はこれと同じような会話を世界の各地で経験した。このように職を求める移民—その数は2020年には2億8100万人と推測された—が一つの国を形成すると仮定すれば、中国、インド、米合衆国に次ぐ世界4番目の大きい国となるであろう。個々の移民にはそれぞれ独自の事情があるのだろうが、大きな共通点がある。現在の移民のほとんどは、昔に採用された難民規定のカテゴリーに当て嵌まらない。つまり、「人種、宗教、国籍、特定の社会グループ、特定の政治思想」などを理由に迫害され、それを逃れて国を脱出した亡命希望者とは異なるのだ。1951年の「難民の地位に関する議定書」にはそういう定義があり、それは冷戦初期の規定である。当時、国際緊張が高く、国連では西側の国々が多数派であった。1950年1月から8月までUSSR（ソビエト社会主義共和国連邦）は、国連が中国の安保理加盟を承認しなかったことに抗議して、様々な国連機関をボイコットした。そういう状況の中の難民規定であったから、それは「不自由」（USSR支配）から「自由」（西側）へ逃れて

くる人々という西側の考え方を反映した定義となった。世界経済の新植民主義的構造のために経済的困窮に追い込まれた人々の移動という発想はなかった。



Nabila Horakhsh (Afghanistan), Windows, 2019.

「難民」を再定義しようとする試みは多くあったけれど、結局、今でも、「難民」という言葉は、飢餓ではなく迫害に関連した言葉として、国際法にとどまっている。例えば、アガデスの3人の男は、1951年の議定書が定義するような国家権力によって迫害されて国を出たのではなく、長期にわたる経済危機で荒廃した国の貧困と飢えから逃れようとした人である。この経済危機を生み出した要因は；まず国が独立したときそれまでの支配者英国から受け継いだ膨大な負債；独立後、植民地支配の間無視されてきたインフラ建設（例えば、ニジェール川のカンダジ水力発電ダム計画）のために債権国パリ・クラブなどから借りた負債；さらに、経済近代化のために政府が国内の貸手から借り入れる国内債務の累積的悪化；ナイジェリアの原油販売の手数料など多国籍企業の種々の形の搾取等々。ナイジェリアは世界第10位の原油埋蔵国であるが、貧困率はほぼ40%である。このスキャンダラスな状況を作り出している要因の一つは極端な貧富の差である。ナイジェリアで一番の富豪アリコ・ダンコートは、一日百万ドルを毎日消費するのを42年間続けても余るほどの、巨大な富を持っている。アガデスの3人の男たちはサハラ砂漠を超える程度の金があったが、地中海を超えるのに必要な金はなかった。私は彼らと話し合っていたとき、彼らは旅を続けても最初の障害で挫折するだろうと、思った。彼らに残されているのは故郷へ帰る苦しい道だけであろう、と思った。しかし、故郷には何も無い。すべてを売り払って旅費を捻出して、この失敗必然の旅に出たのだった。

何故この男たちはヨーロッパへ行きたがるのだろうか？ 答えは、ヨーロッパが富と機会のイメージを世界中の人々に与えているからだ。3人もヨーロッパの夢を私に話した。かつての植民地宗主国が彼らを魅了し、彼らから盗んだ富で発展したヨーロッパの都市が移民を惹きつけているのだ。しかも、このかつての植民地宗主国は今もなお発展途上国を略奪し続けている。ナイジェリアで操業している石油会社の上位5社は、シェル（英）、シ

ェブロン (米)、トタルエナジーズ (仏)、エクソンモービル (米)、エニ (伊) である。また、旧植民地宗主国らはかつての支配国に武器を売り続け、旧植民地国が主権を主張しようとする、武力で制圧した。

1996年、インド人作家のアミタヴァ・クマールが「イラク料理店」という詩を書いた。それはこの小論のテーマとなっている現実を描いた詩である：

アメリカ人はバグダッドのすべての家を  
かまどに変えた  
そしてイラク人が料理人として  
アメリカに来るのを待った  
ベトナム人がそうなったように。



Pablo Kalaka (Venezuela), Pacha en bama, 2016. Pablo is part of the artists' collective, Utopix, that is celebrating its fifth anniversary!

近頃、私は、モロッコとスペインの間のメリリヤ国境の壁をよじ登る移民、コロンビアとパナマの間のダリエン地峡を超えようとする移民、パプアニューギニアのマヌス島難民収容センターに拘束されている移民、エルパソ・デル・ノルテ移民処理センターの移民についても考えている。これらの移民のほとんどは「IMF難民」、「政権交代難民」、「気候変動難民」である。これら言葉は1951年難民の地位に関する議定書には存在しない言葉である。私は、もう一度国際会議を開いてそういう移民がいることを真剣に考えることを、提案する。

現在記録されている2億8100万人の移民のうち、2640万人が難民として登録されており、410万人が亡命希望者として登録されている。つまり、残る2505万人は「IMF難民」「政権交代難民」「気候変動難民」となるわけである。2024年版国連世界移住報告書が「紛争や暴力、災害やその他の理由により避難生活を送る人々の数は、記録の残る近現代で最大規模となった。」と述べているが、それは、厳密には、迫害を逃れる人々でなく、IMF難民、政権交代難民、気候変動関連の難民を指しているのである。

そういう正式に認知されていない難民を作り出した状況について検討しよう。

### 1・IMF難民

\*ほとんどの発展途上国は、1982年のメキシコの累積債務による破綻に例示されるような第三世界債務危機に襲われた。唯一利用できる対策は、IMFの構造調整プログラムの条件を受け入れて、IMFから借金することだった。その条件とは、発展途上国政府は国民の保健や厚生や教育などへの予算を削減し、輸出志向の搾取経済に門戸を開くことだった。

\*その結果、国民大多数の生活が悪化し、国民大衆は国内の不安定で劣悪な職に就くか、危険な外国への移民へ向かうしかなかった。2018年アフリカ開発銀行報告書は、農業へのグローバルな攻撃のために、西アフリ



Zwe Mon (Myanmar), A Mother, 2013.

カの農民が都市部へ移動し、生産性の低いインフォーマル雑業に就いたと書いた。その人々はそこから西側や湾岸諸国の高収入に惹かれて出国していった。例えば、2020年には、3国（米、独、サウジアラビア）への移民が最大になった。しかし、移民先で受ける処遇はしばしば凄惨である。それは希望の移民ではなく、絶望の移民である。

## 2. 政権交代難民

\* ソ連邦崩壊後、米国は軍事的・経済的権力を増大し、米国支配を逃れて自国主権を築こうとする小国の政府を転覆させた。現在世界の国々、とりわけ発展途上国の3分の1が米国の懲罰的制裁を受けている。この制裁の中には国際金融システムの利用の停止も含まれるので、経済的混乱と広範な国民的苦痛が生じる。米国の気に入らない政府を選挙で選んだベネズエラから610万人もの移民が生まれたのは、その政権を倒すために米国が理不尽な制裁を課してベネズエラの経済を飢えさせたからである。

\* 米国やEUの最も強力な政権交代政策が、彼ら潰そうとする政府の国から逃げ出した移民に対してまったく寛大でないのだ。例えば、ドイツはアフガニスタンからの移民を国外追放し始めたし、米国は、必死になってメキシコ・アメリカの国境のファレス（旧名エルパソ・デル・ノルテ）にテントを張ったベネズエラ人を追っ払っている。

## 3. 気候変動難民

\* 2015年、国連気候変動枠組条約第2回締約国会議（COP21）で政府代表たちは強制退去に関する作業部会を立ち上げることに同意した。それから3年後の2018年、国連グローバル・コンパクト<sup>1</sup>は、気候悪化のために移動せざるを得なくなった人々の保護に同意した。しかし、気候変動難民という概念はまだ確立していなかった。

\* 2050年までに少なくとも2億1600万人の気候変動難民が誕生するだろうと、2021年に世界銀行が計算した。海面上昇で小さな島が水没し、島の住民たちは自分の責任でない破局の犠牲者となる。巨大なカーボン・フットプリント（二酸化炭素排出）を出す国が故郷を海面下に失う人々に対して責任を負っている。

故郷を捨てて、故郷放棄の原因を使った外国で二級国民扱いされて暮らすのを望む移民なんか一人もいない。（ゼトキン社会研究フォーラム（ZF）の「国外追放者の輸入：危機時代の欧州の移民制度」という報告書がそれを書いている）通常、女性はジェンダー暴力の危険があるので、長距離移動を望まない。彼女らは自分が住もうときめた場所で人間的尊厳を維持して暮らすことを望む。

貧しい国々で人民主権の新しい発展政策、戦争と破壊しかもたらさない政権交代暴力の廃止、気候変動に対してもっと断固とした行動、これらが拡大する難民問題への正しい取り組みであろう。

10年前に、パレスチナ系アメリカ人の医師で詩人のファディ・ジュダが、上述の考えを反映した「ミメシス」（ギリシャ語で「自然の模倣」）を書いた。

私の娘の自転車のハンドルに  
一匹の蜘蛛が巣を張って、とどまっていた

<sup>1</sup> 1999年の世界経済フォーラムでアナン国連事務総長が提唱した国連と民間企業・団体が協力する「フォワード・アクション」というイニシアチブ。



2週間もとどまっていた  
娘は蜘蛛を傷つけないで  
じっと待った  
蜘蛛が自分の意志でハンドルから離れるまで

蜘蛛の巣を壊せば  
蜘蛛は自転車が家でないことを知るし  
君も自転車に乗れるのにと  
私は娘に言った

ええ、でもそんなふうにして  
難民が作られるのでしょうと  
娘が言った

Malak Mattar (Palestine), Electricity, 2016.